

# P I S A 型学力

「教育課程行政と学力」は、「教員育成、研修」とともに、いま興味を持っている研究課題である。

教育課程マネジメント（教育行政がテーマなので、あえてこの用語を用いる）に課題を持たせた一つにOECDの国際学力調査（P I S A）とその結果がある。

我が国（文科省）がP I S A学力調査OECD教育局指標分析課長アンドレア・シュライヒ氏を招いた講演会で次のようなことを話していた。

労働は、

- ①単純手作業
- ②非単純手作業
- ③単純知作業
- ④非単純分析型作業
- ⑤非単純相互作用的作業

に分類される。

具体的には、

- ①は、文字通り単純な手作業
- ②は、ドライバーのような業務
- ③は、ルールに従って作業を行っていく業務
- ④は、頭を使う業務
- ⑤は、紛争、葛藤、問題解決を行う業務

世界では、

- ①・②の多くが自動化されている。
- ③はホワイトカラーの分野で、コンピュータが業務を担ったり、業務が海外へ進出している。仕事量は減少している。

学校で教えているのは①と③で、今後の勝ち組は④と⑤になる。

P I S Aでは、④を測定している。

世界の労働需要の変化を分析し、この中において、世界の経済発展を進めるための教育の指標を示している。

いま、学校や世界で⑤が多く起こっている。これらに対応する力は必要だ。この力をどのように学校で育成するか、大きな課題である。